

## 甲府市食育推進計画検討委員会 平成30年度第2回会議 議事録

1 日 時 平成30年11月28日(水) 午後6:30~8:25  
場 所 甲府市保健センター プレイルーム

### 2 出席委員(50音順)

井上委員、隈部委員、小林委員、神宮寺委員、須田委員、田草川委員、  
武井委員、服部委員、早川委員、深沢委員、藤井委員、藤澤委員、松谷委員(13名)

### 3 欠席委員

古屋委員、青柳委員、玉川委員

### 4 議 題

- (1) アンケート調査結果報告
- (2) 第2次食育推進計画の評価について
- (3) 第3次食育推進計画の骨子案について
- (4) その他

### 5 傍聴者の定員と傍聴者数

傍聴者定員 5名  
傍聴者数 0名

### 6 議事の要旨

議題(1) アンケート調査結果報告

議題(2) 第2次食育推進計画の評価について

#### 議長

ご意見・ご質問がありましたら、ご発言をお願いします。

#### A 委員

低栄養該当者(年齢階級別)で、29年男性、女性が2.8%とか5.3%です。県のデータでは、75歳以上の女性は29%というデータが出ています。全然違うが、どういう調査なのか。今、高齢者の低栄養というのは非常に問題になっている中で、この数字だと、本当に甲府市はいいということになるが。

#### 事務局

この調査は、75歳以上の方で、介護予防・生活支援サービス事業の対象者及び要支援・

要介護を受けている方を除いた方を対象としています。

#### A 委員

これは、市民の健康づくり、食育計画を立てるわけだから、低栄養状態にならないようにするための全体のデータを集めないといけないと思います。

#### 事務局

甲府市の健康診査の 25 年と 29 年のグラフで、全体でいくと 29 年度の健診結果では 22.9%が、低栄養傾向にあるということで、年齢でいきますと、65 歳から 74 歳の女性だと 29.9%の方が、やはり、低栄養状態という結果が出ています。出典、どこから出したかによって、数値がちょっと違います。

#### A 委員

下の図はいらないと思います。

#### A 委員

低出生体重児が山梨県は結構、トップクラスです。この評価では「減少傾向にあります」とあるけども、全国平均より高いわけです。

やはり、問題として扱ったほうがいいと思うし、なぜこんなに高くなるのかということも、調べる必要があるかと思います。

割合とすれば、全国平均が 9.4%に対して山梨県が 9.8%、甲府市が 10.2%ということなんです。たいしたことはないけれども、正常ではないわけだから、課題にしてもいいかと思います。

#### 議長

他にはいかがでしょうか。

#### B 委員

中間報告の一般市民のところ、3割の回収率で、本当にこれを言っているのか。3割の回収しかないから比較して、高い、低いと言っていますが、果たして文言として高いと考えているのか、低いと考えているのか。

また、一般市民というよりは、今後、16 歳～19 歳、20～39 歳、40～49 歳、65 歳以上など表記していかないと。全部まとめて言うのは、問題があるように思います。年齢別は、これからの課題にしていきたいと思います。

そして、先ほどの低出生体重児の件は、私もそう思います。0.1 違うからどうということではなくて、0.1 違うというのは大きいと思いますので、「減少傾向にある」という文言は、ちょっと小児科医として引っかけられます。ここの数字が低いからではなくて、この

数字をなんとかしようという考え方にもっていてもらいたいと思います。

#### 議長

他にはいかがでしょうか。

#### C 委員

甲府市の概況について気になった点があります。「朝食を欠食する割合」で、挙がっているのが、「食事をとる時間」のところにある「食べないことが多い」というところの 20 歳、30 歳、40 歳代、ここを挙げたほうが、むしろいいのではないか。

できれば、男性だけではなくて女性も挙げていただけると、より良いのではないか。つまり、女性も 20 歳代が多いということも含めて見る方がいいと思いますし、よく見ると、女性の 40 歳代も多いです。そのへんも挙げたほうが、子どもだけの問題ではない、ということでもいいかと思います。

#### 事務局

素案を作る段階で、調査結果、全ては載せられないので、この中から抜粋したかたちでポイントとなるものを載せていければと考えています。

#### C 委員

そうしますと、最初のところで、気になったのは、幼児の保護者の扱いです。幼児の保護者自身が答えているものと、幼児の結果のものが混在していると思います。ここは幼児の保護者、ここは幼児のデータというのがはっきり分かるように。後ろのほうの数値を見ると幼児のデータが出ているので、そこと照らし合わせるとどっちというのがよく分かりますが、そこが混在していると感じました。

#### A 委員

中間報告の「適正体重」これを知っている、知っていないとか、取り組んでいるというのは、どういうイメージですか。本人のイメージでしょうか。

「自分の適正体重を知っている、維持に取り組んでいる」知っているのは、合っているか合っていないかは別にして、ということですか。それで約半数ぐらいということですか。

特定健診でメタボリックシンドロームの事業をやっているところでは、適正体重を知っている人を増やすということは、とても大切なことだと思います。市民で本当に知っている人を増やすということを、半数いるからいいのではなくて、半数しかいないというふうに捉えたほうがいいかと思います。

#### D 委員

まず、進め方ですけれども、現状の報告があつて、それから、計画、目標値、計画等をどうするかという話だと思います。

あまり全般、広げすぎると、分からなくなってしまうので、このアンケート結果の疑問点を解決しておいて、それに基づいて次の段階、具体的に、一番興味があるのはそのあと、具体的にどう展開して、その数値を良くするか、そういうところを議論するのが前向きかと思っています。

まず、問題があるところを、整理していただいとすることで、今、A 委員がおっしゃった、自分が思う自分の体格、客観的なやせの情報は、アンケートの中で、もう分かっていたということですか。

#### 事務局

自己申告で身長、体重を記載していただいています。

#### D 委員

それを計算したのですか。客観的にBMIを計算して。それは大変な仕事でした。

#### 事務局

例えば、やせの分類に入っている人が、自分の体格は普通だと思っていると答えている方がこれくらいということです。自己申告ですので、自分の身長、体重を書いていた上で、計算をしました。

#### D 委員

身長と体重から計算したってことですね。それで、その人がどう思ったかということ調べたということですか。ありがとうございました。

#### E 委員

中間報告書の「食事の時間は楽しいですか」というところで、幼児保護者とありますが、これは、幼児保護者の答えではないわけですね。幼児がどう思っているか、それをどう表すのかが、心配です。

共通設問ですが、共通に幼児の保護者が回答しているものと、幼児のことを回答しているものが、共通じゃないようにしたほうがいい。実際のアンケートでは、保護者には聞いていないですよ。幼児が、どう、楽しいか。

#### 議長

そうです。

## E 委員

1 番の食育に関しては、保護者が知っているかどうかで、混在しているので、それをどのような表し方をされて出てくるのかというのが、心配なところです。

## 事務局

この設問も、「お子さまは食事の時間を楽しんでいますか」で、幼児の保護者が、子どもが楽しんでいるかどうかを答えてくれているところです。

## E 委員

そうですね。もう少し、明確に出るかたちで表現したほうがいいと思います。

## 事務局

保護者が答えていることと、幼児に対してのお母さんの考えというのが、混在しています。

## E 委員

もうちょっと明確なかたちで、全設問に関して、お願いしたい。

## 議長

53 ページのほうに、幼児保護者調査のほうにありますが、同じものが出ています。食育の関心度は、幼児保護者、下は幼児と、はっきりしているので、こういうかたちでよいかと思います。

## A 委員

「食べる習慣がない」小学生が 9.6%、約 10%の小学生が「朝食を食べる習慣がない」というのは、びっくりしました。

## 議長

これは、朝食を食べないと答えた人に対する質問ですか。

## A 委員

どのくらい朝食を食べているかは、どこにありますか。

## 事務局

小中学生の調査結果でいきますと、朝食の摂食状況で、「朝食を食べていますか」という問いに対して、小学生全体では、89.4%の方が食べているという回答になっています。その中で、食べない方が 1.5%、その中でということです。

#### A 委員

その中の 9.6%が「習慣がない」、分かりました。

#### 事務局

89.4%は、毎日食べるということで、週に4～6日とか、週に1～3日も含めた食べない人も含めて食べない理由を聞いています。

小学生のグラフの下のほうに 52 人とあり、そのうち、「食べる習慣がない」という人が 9.6%ということです。

#### D 委員

幼児保護者の「食事の時間を楽しんでいますか」の設問で「どちらともいえない・どちらかといえば楽しんでいない・楽しんでいない」が 20.6%という結果がありますが、これは、お母さんが見て、子どもが楽しそうに食事を食べていなかったということですか。無理やり食べていたということですか。

#### 事務局

そこまでは、分かりません。

#### D 委員

毎日の食事でしょう？楽しく食べていないという感想が理解できない。

#### 議長

設問自体は、「お子さまは、食事の時間を楽しんでいますか」という質問です。

#### D 委員

子どもは楽しんでないと、保護者が見ているってことですか。

#### 事務局

そうです。そこが大きい問題だと思っています。

#### D 委員

それは大きい問題です。一番、楽しい時間じゃないですか。子どもにとっては、そこが失われている。お母さんの態度として、もしかしたら、「食べなさい」「この嫌いなものを食べなさい」無理やり食べさせようとして、そして子どもがイヤイヤするので楽しそうに食べていない。知識のほうが先に行っています。もし、そうだとしたら。ここは問題かと思います。幼稚園ではどうでしょう。

#### E 委員

現実的には、幼稚園では楽しく食べるようにしています。保護者の方は、「食べさせなきゃ」とか「こぼさないで」と言いますが、幼稚園に来てから、「そうじゃないんですよ」、「楽しんで、手で食べたっていいですよ」という話をして、初めて「ああ、そうなんですか」という現実があります。

「ねばならぬ」感の、親が多いので、子どもも楽しんでないって見える親がいる現実です。

#### D 委員

そこは重要ですね。栄養のバランスということは、もちろん大切だけれども、そこを強調するあまり、食べさせなくちゃいけないという、そういう観念がお母さんたちに生まれてくる。

そういうお母さんが子どもを見てそう思う。絶対、食べることに好きに決まっています、子どもは。

#### E 委員

食事のマナーとかに、すごくこだわる。まだ、そういう時期ではないですと、幼稚園に入ってきてから教えています。

#### C 委員

そういう情報をどうやってその方たちに伝えていくかということが重要だと思います。

#### D 委員

こうやって目標値を立てると、栄養のバランスがというのが、一番最初に出てくる。そういうものが重要なのは当たり前だけれども、その情報をどう伝えるか。お母さんたちがやらなくてはならないという使命感の中で、いろいろと「食」の問題を考えているので、その伝え方が難しいです。

#### 議長

3歳児健診のときの情報の一つとして入れていくということもあるのかもしれない。「どこで情報を得たいですか」の中に、幼稚園や保育園と書いているので、そういうところがいいのかと思う。

他にはいかがでしょう。中間報告書で、特にお気付きの点がなければ、結果の概要と課題で何かお気付きの点はありますか。

## E 委員

中間報告で「朝食を食べない理由は何ですか」に関して、幼児保護者の設問はどこですか。

## 事務局

「お子さまは朝食を食べていますか」で、「毎日食べる」と答えた人が 93.5%ですので、対象となっているのは 23 人です。

## 議長

「食欲がない」が一番ですね。69.6%、「食欲がない」というふうに、保護者が幼児に対して評価している。

## A 委員

甲府市の水道水ですけれども、満足度を聞いているのですが、この結果を、どういうふうに評価したらいいのか。これはいいのか、どうなのか。もっといい評価があってもいいかと思います。

## D 委員

東京で住んでいる人が甲府で水を飲めば、絶対おいしいと言うに決まっているけれども、ずっと甲府の水を飲んでいる子どもたちが、本当のおいしさを理解しているかどうか。当たり前だと思っている、僕はそうだろうと思います。

## 事務局

担当課では、甲府の水がおいしいということを改めて認識していただくために、いろいろなイベントで、甲府の水とそれ以外の水の飲み比べというイベントをしております。「どこの水がおいしいと思えましたか」というシール付けをすると、やはり、「甲府の水が一番おいしい」というところにシールが多くなっています。今、普及啓発に取り組んでいるところです。

## A 委員

食改さんのところですが、幼児保護者、中学生で8割以上の人知らない、ここに焦点を当てていますけれども、食改さんが、どういう人を対象にターゲットを絞って活動をしているのか。幼児保護者、中学生を対象にしているにも関わらずこういうことなのか。

## F 委員

これを見てショックでした。もっといると思ったのですが。(対象にしているのは) 高

齢者と幼児です。あと、今盛んにしているのは、若者と壮年に入ったところですが、あまりにもヘルスメイトを知らないというショックがあります。

#### A 委員

一般市民が「知っている」「名前だけ知っている」が一番多い。前のデータがあれば、以前と比べてどうなっているかがわかるが、食育の最前線で活動しているボランティアの食改さんを、この調査でがっかりさせてはいけないと思っています。やる気を持たせないで。

#### F 委員

どうしたら、皆さんに浸透するか。

#### A 委員

前よりも、「知っている」、「名前だけ知っている」人が増えましたよ、ということに焦点を当てるべきだと思います。

#### F 委員

各地区で皆さん、一生懸命やってはいるので、いろいろな教室に参加する方が増えているのですけれども。

#### D 委員

たぶん、「食生活改善推進員」って名前が結び付いていないということではないですか。分かりにくい言葉ですから。

#### F 委員

小学校に入って、郷土料理で、一緒にほうとうを作ったり、いろいろ活動はしているのですが、今言われたように「食生活改善推進員」というよりも、近所のおばちゃんみたいに、名前の認知を意識してもらいたい。今は、ピンクのTシャツなどで、目立つようにしています。どういうふうに認知していただくか。

#### 事務局

自由記載欄に1名、「食生活改善推進員」という方を知らないとは思ったのですが、ふと考えると、「食推さん」という方がそうなのかなと、途中で思ったという回答がありました。

設問では活動内容等の説明も書かせてはいただいたのですが、普段呼び慣れている名前であったり、ピンクのTシャツとかエプロンでという説明があったほうが良かったというところが、事務局としての反省点になります。

## 議長

それは、次年度、アンケート調査をする際の反省事項ということで、追加事項にしていただければよいかと思えます。他にはいかがでしょうか。

中間報告書については、このあたりにしまして、次に概要と課題の説明で、何かお気付きの点はありますでしょうか。

## B 委員

天然だしを使って料理ができるということで、なぜ天然だしにこだわったのですか。

## 事務局

食生活改善推進員の皆さまとも減塩推進活動の一つとして、適切な塩分の摂取の取り組みとして、天然だしを、まず知ってもらおう活動をしています。また離乳食でも、まず、保護者の方に昆布のだしを取っていただけたらということです。

「昆布のだしを取ってください」という言い方はしないのですが、昆布のだしの取り方等は、難しいことじゃないんだということを知っていただきたいという活動をしていく中で、どのくらいの方が、実際、取ったことがあるのかということを知り得る手段がなかったなので、設問を設けました。

## D 委員

天然だしで取ることの意味と、今、粉末状で簡単に取れる方法があるじゃないですか。やはり天然だしのほうがいいのですか。

## 事務局

いい、悪いとかいうことでもないので、今、粉末だしも、塩分が入っていないものも多々あるので、もちろん、それを使ってもいいのですが、だしの味を、もとの日本人のうまみを体験してもらいたいという思いがあります。

## D 委員

それは重要なわけけれども、ただ、天然だしを使わなくちゃいけないということの中で、料理の時間が取れない、自分で作る時間がないというところに結び付くと嫌だなと思っています。

うまみの問題は、もちろん重要なので、それはいいのですが、天然だしにこだわると、ということなんです。

## 事務局

価格の問題も出てくるので、なかなか家で継続してというのは難しいとは思っていま

すが、知らないというのも悲しいかと思えます。

#### F 委員

県の調査で飲み比べをしましたが、やはり、ほんだし、化学調味料が一番でした。

三通り出したのですが、煮干しと昆布とかつおぶしと、そして、ほんだし、化学調味料を出しましたが、全体的に化学調味料が一番おいしいというデータが出てしまったので、一般家庭に浸透しているのかと思いました。

#### A 委員

関西地方は、塩分が1グラムぐらい少ないです、全国に比べて。食改さんの中でも、朝のみそ汁を、前の晩にポットに昆布と煮干しを入れて冷蔵庫にしまっておく。それを朝使う。そうすると、そんなに手間もかからない。そういう工夫をしてみそ汁の塩分を減らすという活動をしている方たちもいる。

私は、味噌汁のナトリウム分が少なくなればいいから、顆粒のだしを入れても、結果的に塩分が少なくなればいいということもあるので、それをあまり言ってしまうとどうかと思う。

薄味に慣れるということは、必要だと思うし、化学調味料の天然だしのおいしさに慣れていて、家庭で作るものよりも、コンビニのほうがおいしいということもあるかと思えます。薄味に慣れるということが必要かと思えます。

#### F 委員

ほんだしを、ちょっと足す人が多いです。天然だしに、ちょっと、ほんだしを足せば、一段とおいしくなるという話は、一般の主婦から聞きます。

#### A 委員

山梨県の塩分摂取量は飛躍的に下がりました。16.6gから10.5gになった。これは、食改さんのお陰です。

#### B 委員

この概要と課題が次のステップになるということです。

この中間報告の結果を見て、問題点は、大きく4つぐらいじゃないかと思えます。まず欠食。自分の体が太っているか痩せているかということはどう捉えるか。その次に、食事って楽しいって、子どものときからどうやって教えていくか。最後に、体をどこまで高齢者でキープしていくか。

この4つの観点から分類されるべきだと思いました。その4つの柱から枝分かれしていったら、概要が出てくる。そうすると、その4つの柱が「ふう・りん・か・ざん」につながっていくと思うのです。

## 事務局

アドバイスをいただいて、設問順で、ただ抜粋した羅列になってしまいましたので、全体を見て、柱立てをして整理していくということは、すごく分かりやすいかと思いました。

## D 委員

目標値の話にもなりますが、朝食の孤食率で、朝食の重要性は重々、承知していますけれども、果たして、朝食を一緒に食べなければならないのか。夕食を皆で一緒に食べれば、朝は、各々、生活習慣、状況は違ってくるのでいいかと思う。

例えば、子どもの時間帯と大人の時間帯で、一緒に食べられれば、それに越したことはないのですが、本当に目標になるのか。朝食は、もちろん皆で話しながら楽しい時間を過ごすという大きい意味はあるけれども、朝食に限定すべきなのか。

## 事務局

次期計画の目標値で、私たちも話をする中、今の生活リズムを考えたときに、朝食を皆で食べることを目標とすることが本当に意味があるのかということと、また、生活リズムを変えるのは、とても、今は難しい状況なので、例えば夕食にするとか、委員の皆さま方にも意見をいただきながら考えたい。

これは2次の目標の評価なのですが、第3次の目標を挙げるときに、これがどうかというのは、事務局の中でも、相談していたところです。

## D 委員

たぶん、国の食育のほうも、週に何回か一緒に食事をしましょう、ぐらいの優しい感じになっているのではなかったか。

これが大きい目標になっているので、そこはどうかと思いました。

## 議長

他にはいかがでしょうか。低出生体重児のことが出ていましたが、この中の課題の中の一つとして入れなくてよいでしょうか。

## B 委員

女性がどう思っているかだと思います。そこにつなげて、大きな柱の中で、低出生体重児のことが出てきて、妊婦さんにつながっていくと思っています。

## 議長

その中に一つ入れていただくほうがいいと思います。

やせの女性が多くて、やせているのだけれど、自分の体重に対して何もしていないと答えている割合が多いので、それが低出生体重児につながっていくと考えると、あってもいいかと感じています。

## D 委員

楽しく食べるということの意味ですが、甲府市歯科医師会は委託されて味覚教育をやっていますが、基本は、やっぱり楽しく、それから、食に意欲をもつとか、そういうところを小さい頃から学ばせておいて、将来バランスの取れた栄養が自然に生まれるように、まず感覚からいって、知識はそのあとだと思っています。

そういうところで楽しく食べていない幼児がいるということが、ショックで、そこを目標値として一つ考えていただければと思っています。

## 事務局

やはり、食事を楽しむというのはとても大切なことで、基本施策の中にも、食を楽しむということを組み込んで、第3次に反映できればと考えています。

## D 委員

甲府はそういうことで、先進的にやっているつもりなので、理解を、ぜひ食育推進計画の中にも組み込んでいただきたい。

よくかんで食べる、これは当たり前の話で、何のためによくかむのか。

その理解を深めてもらうためにも、楽しいおいしい食事をするこの意味を、小さい頃から育てる目標を、ぜひ作っていただきたい。

## 議長

そうしますと、調査結果と、この概要と課題については、もう一度、柱を立てていただいて、整理しながら、方向性をまた見出していくということをお願いできたらと思います。

それと、第2次の甲府市の食育推進計画における指標と現状値の目標達成状況がありますが、これについて、何かご質問はございますか。

## 事務局

朝食の孤食をするというところで、今回、40代の男性がとても高い。女性も高いというところもある中、今回20代の男性がC、30代のほうはBということですが、そのアプローチの仕方も、難しいと感じているところなので、その部分で、ぜひ、委員の先生方から、どういう働きかけをすることがいいかをいただければ。

今、小中学生は、学校教育の中で、「朝ご飯をしっかり食べましょう」と、取り組んでいただいていると思うのですが、職場での取り組みというところも、今後、職域とどう連携をしていくかというところもあります。

やはり、働いている大人の方に「朝ご飯をしっかり食べましょう」という教育も難しいかと思うのですが。いかがでしょうか。

#### A 委員

国の食育計画には、成人の統計調査は入っていますか。

#### 事務局

第3次では「朝食を欠食する若い世代の割合」ということで、数値的には15%になっています。「若い世代」という表記になっています。

#### A 委員

ライフスタイルがいろいろ変わって、例えば、深夜勤務の人とか。そうすると、朝食は、どっちみち食べられない、食べることができない人もいます。健康日本21では、「1日2回以上、バランスの取れた食事をしましょう」ということをアピールしています。

決して、いいことではない、1日3食食べたほうがいいです。結果的には肥満予防にもつながる。1日2回よりも、3回のほうが脂肪を作る率が少ないというデータもあるようです。

食べない理由で、「食べる習慣がない」「食べる時間がない」のは、寝ているから食べないのか。若い人でも朝食を食べるようにすることを、今、「どのような方法がありますか」と聞かれましたが、ないです。

健康に関心をもってくると、だんだん年をとってくるといふこともあるので、やらなくていいということではないが、サラッと流したほうがいいのでは、成人の欠食は。でも、バランスの取れた食事を1日2回とるといふのは大切かと思う。現実的には、そうせざるを得ないかと思えます。

#### C 委員長

39ページに主食、主菜、副菜についての結果が出ています。

若い人たちをターゲットで考えると、例えば、新人職員の研修会に、1回でも入れてもらおうとか、まずは市役所からとか、県庁の職員からとか、あるいは、教職員組合でもそういうことはありますか。そういうところで、時間を作っていただく。

自分の健康を自分で守るために時間を作っていただけると、少しは入っていきやすいかと思えます。

農協だと、厚生連の栄養士さんがやったという話を聞きました。新人の人たちに対しての食育の教育に何をすればいいかを聞かれたことがありますので、そういう時間を入

れていただけるような方向性があると、違うんじゃないかと思いますが、その余裕があるかないかも問題だと思います。

## B 委員

産業医をやっていますが、従業員 250 人の工場では必ず産業医には保健師さんが入っていて、内科健診が年に 1 回のときには、栄養士さんと保健師さんが、「ご飯を食べましょう」という話をしています。ただ、なかなか難しいです。

もうちょっと小さな 100 人程度の事業所ですと、介入する方法、例えば、こういうところに栄養士の先生方がいらして、こういうことをやっているんだということを、産業医会と栄養士の先生たちがフィットすると、若い世代は、少し目覚めるのではないか。若い世代に教え込むのは、小さなうちから教え込んでいかないと難しいように感じます。

## A 委員

これで、計画を立てます、そして立派な冊子を作ります。そのあとの事業費というのがありますか。新たに予算化できるかです。

結構、若い人の健康情報は少なく、自覚症状がないから健康だという人が結構いて、我々は、とんでもないと思います。そういう人たちの衛生教育、健康教育で、何か方法がないか。

食堂がある会社では、食堂に一口メモを置く。その原稿は市で提供する。そうすると、ここにある情報を定期的に情報提供できるし、ホームページから取ってもらってもいいし、栄養士会でも、そういう情報を取れるようにしています。

ただ、企業にそれを PR できない。方法がわれわれになくて、会社が甲府市の商工会か何かを通して、会社の食堂に一口健康メモを置いて健診の大切さとか、バランスの取れた食事とか減塩というのを流していくと、60 歳以下の働き盛りの人への健康情報が、少しは提供できるのではないかと思います。

## 事務局

甲府市が、来年の 4 月から中核市になるということで、保健所を持ち、県が今行っている、特定給食施設等の指導で、1 回 20 食以上の給食を提供しているところは、定期的に回って、連携ができるというかと考えているところです。

また、地域職域推進協議会というところで、健康出前講座というのも、保健所を持つことで職種も増えますので、事業所の希望に沿って、生活習慣病の予防についての話を出向いて行くような事業も計画をしているところですので、より職域との連携というのは、もちながら働きかけができるかと思っています。

一口メモを定期的にとというのも、企業と連携する中で働きかけができればいいと感じました。

## 議長

他にはいかがでしょうか。目標達成状況の評価についてというところまではご質問等は以上でよろしいでしょうか。

そうしましたら、議題の3で、第3次食育推進計画の骨子案について、事務局から説明をお願いします。

## 議題（3）第3次食育推進計画の骨子案について

### A 委員

基本理念ですが、食と水で健やかな身体をつくり、とありますが、水の部分というのは、どこかに説明がありますか。

### 事務局

1次計画には載っていたのですが、2次には落ちていたということです。

3次の中にまた、甲府でおいしい水というのが、大きな特徴になりますので、おいしい水を作る水源地の林とか、水源地を守るというところが、欠けているという意見が庁内でもありましたので、考えていければと考えています。

### A 委員

これだけのものの中に、水とあるので、生きていくうえで水も大切だし、それをみんなで守ることも広義には食育になるので、入れたほうがいい。書いてはいるが、何も説明がないというのは、どうでしょうか。

担当課の方も、食育という視点でも、水を供給していただきたいと思いますが、農業の方にも入り込んでいって地産地消を増やす、広げるということが増えていると食育推進計画が、いろいろな課が関わる計画になるのはとてもいいことだと思いますので、入れ込んでいただきたらと思います。

## 議長

他にはいかがでしょう。まだご発言いただいてない委員の方もいただければと思いますが、いかがでしょうか。

### G 委員

今の水は、唐突な感じがしましたので、ぜひ、入れてほしいです。キャッチコピーの中で、「よく噛んで」というのは、5割はあまりよくかんでいないという中で、「たのしく食」も幼児の2割は食事を楽しんでいないという結果がありました。「バランスよ食」と

いうのも副菜の組み合わせで1日2回以上食べるということですが、「おいし食」というのは、何を意味するのか、どう考えていらっしゃるのかが、疑問に思っ、何か理由があるのでしょうか。

## 事務局

地産地消とか、先ほどの点で、素材を生かしたというところで、食欲という基本的な欲求を満足するためには、楽しく、おいしくということを考えての、「おいし食」を考えています。

## D 委員

健康づくりにおいて、栄養の問題が、一つ大きい問題としてありますが、もう一つは、食の意味として、心の栄養と言いますか、脳との関係で考えると、体を活性化するのに、そういう食の時間というのは、すごく重要です。

人間は、生きるために食べなくてはならないですが、食べることは生きる喜びであるというのは、まさにそのことを言っているの、心との関係、脳との関係、一日、仕事が終わったあと、おいしいものを食べることによって、パワーが生まれる。

あるいは、宇宙飛行士が錠剤だけ飲んで栄養だけの話で済ませていけるかという、そういうことではなくて、おいしく食べるということが、いかに人間にとって重要なことかということが、もう一つ、大きな意味もあるということ、前に言わせてもらったことを作っていただいて、非常に感謝しています。

おいしくの意味を、ただ単においしいものを食べるということではなくて、おいしく食べるためには五感を使って、それを強化する方法も、言葉で表現するとか、今、小学校でやっていますが、違いが分かるためにも、おいしく食べることを意味を、ぜひ、子どもたちにも教えていきたいので、これは残していただきたいと思っています。

## A 委員

もう一つ、料理のレパートリーを増やして、おいしく調理できる、そういうことも、自分で作る料理のレパートリーが少なく、目玉焼きだけにならないように、いろいろなものが作れることもとても大切なことで、それもおいしくなければだめで、お母さんが作るよりもコンビニのほうがおいしかったということがないように、おいしい料理を研究していくということも、家族が集まって共食がより進むのではないかと思います、そういうことも、活動の中に入れていただければと思います。

## D 委員

人間は、進化するためには、煮るとか焼くとか炒めるとか、いろいろな調理法を開発して、おいしく食べるように進化していった。

食を楽しむようになったという歴史もあるので、そういうふうには、おいしくは、栄養と もう一つ、大きい食の意味として、おいしく。そういう意味があるということ、ぜひ、ご理解いただきたい。

#### H 委員

確かに、おいしいというのは、すごく大事なことだと思います。今の女性は仕事もしている、あまり自分で手をかけたものを作らない。

特に、スーパーの惣菜なんかで買ったものを出してくる。子どもがそれを見ているので、食事を作るということをしなくなる気がします。

だから、やはり、母親がちゃんと食事を作るという家庭は、自然と、子どもも食事を作ります。

ところが、それをしない親の子どもというのは作り方も分からない、何もできない。うちは魚屋ですが、今の主婦で丸魚をおろせるのは誰もいません。できないから、包丁を研ぐこともできないし、いろいろ付随していると思いますが、食文化を残していくということは、やはり、おいしいという部分のキャッチコピーは絶対、必要かと思います。

#### D 委員

料理をするということもすごく重要で、男もやらなきゃだめなのは当たり前なので、ぜひ、小さい頃からの料理体験、そこも入れていただきたい。

#### 議長

他にはいかがでしょうか。第3次に向けての具体的な項目と目標値というのは、これからということになるでしょうか。

#### 事務局

本日いただいた意見を参考にさせていただいて、またアンケート結果、内容等を見ながら素案を作っていく中で、目標値のほうも、どのようにやっていけるかというところで、また、たたき台のほうをこちらで作って、それについて意見をいただくかたちで考えています。

#### 議長

皆さまのほうから、何かご意見がございましたら。

#### A 委員

最終的には、どんなスタイルの計画書を作る予定でいますか。概要版を作る、その他には。

## 事務局

冊子でまとめさせていただきながら、PRができるような、併せて概要版も作っていくことを考えています。

## B 委員

概要版は、メディアに対してどういうものですか。ホームページ上で分かりやすく、すぐ開けるようにしていただきたい。甲府市の「すくすくメモリーズ」にも出していただければと思います。

## 事務局

分かりました。また見やすいかたちでPRできるような工夫は考えていきたいと思えます。

## 議長

他にはいかがでしょう。特にないようでしたら、以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきたいと思えます。ご協力、ありがとうございました。

以 上